

広大生
必見

「被爆者の話を聞く会」

— 私たちが暮らす広島で起きた原爆投下について、被爆者の話から学んでみませんか —

日時
2026年

6月28日 (日)
14:00~16:00

場所
参加費

広島大学ミライクリエ大会議室
東広島市鏡山一丁目4番5号 (東広島キャンパス南側)
無料



広島、長崎に原爆が投下されて81年目の8月6日、9日が近づいています。

広島で大学に進学し、「せつかくだから原爆のことを学んでみたい」と思っている方もいるのではないかと思います。また、広島ならではの平和に関する授業があり、改めて被爆の事実を学んでいる方も多いと思います。

現在、広島の街の風景や生活は、整備され、発展し、原爆投下当時の面影はほとんどなくなりました。しかし学ぼうとすれば、原爆ドームをはじめとした被爆建物や碑など、現在の広島にも原爆の事実を伝えるものがたくさんあります。そして何より、世界で唯一の原爆投下の生き証人である、被爆者の方がいらっしゃいます。私たちは、被爆者の声を直接聞くことができる最後の世代となりました。その被爆者の生の声は、私たちが学んできた教科書にはありません。

* 被爆者の方の実際の声 *

ノーベル平和賞の受賞式の時に、(被団協の) 田中熙巳さんがね、自分の身内の5人が亡くなって爆死してる様子を見て、「人間としての死に方じゃない。人間としての焼かれ方じゃない。もうほんとにこういうことがあってはいけんことが起きたんじや。」言っておられた。いらんもんです。あれ(核兵器)はもう絶対に。

被爆81年の夏、被爆者の話を聴き、学ぶ場を学生と作りたいという思いでこの会を企画しました。広島出身の方も、他県から進学された方も、ぜひこの機会にご参加、お待ちしております。

お話

はたぐち みのる

畑口實さん

原爆投下の翌年3月生まれ。胎内被爆者。

母は爆心地から約20km離れた自宅からキノコ雲を見た。實さんを見ごもって母は8月10日に父を捜しに広島駅へ。辺りは焼野原で焼け跡から父の遺品と遺骨を持って帰った。

實さんは1997年4月から9年間、広島平和記念資料館の館長を務め、国内外に被爆の実相を伝えてきた。

DM、メールなどでお気軽にご連絡ください!

主催：核廃絶研究会

広島の大学生を中心に活動しているサークルです。

 waveagainst86@gmail.com



各種SNS



企画の
申し込みは

